

本釣などがあげられる。大入島の漁業は小規模であり、それに加えて後継者不足で島の漁業は衰退の一途をたどっている。その上約1 Kmの対岸にある興人パルプ工場の廃液による公害問題が起こっており、真珠養殖やハマチ養殖はその漁場を廃液の影響のない水域に移している現状である。

また佐伯市以外の地域から出て佐伯湾で漁業活動を行なっている町としては鶴見町と上浦町があるが、上浦町は漁村とは名ばかりで漁船の隻数も少なく、沿岸漁業は労働力不足で潰滅寸前にある。しかし鶴見町では比較的漁業が盛んに行なわれており、漁業従事者は全就業者の31.5%を占めている。漁業形態としては、旋網・巾着網・曳網・小型機船底曳網・一本釣・延縄・突棒漁業などが普及している。

漁業の近代化の波にのり遅れたことや、魚の乱獲による漁業資源の欠乏により、沿岸漁業の衰退は著しい。この対策として真珠・ハマチ・カキ等の養殖が行なわれている。真珠養殖は気候温和にして波静かな鶴見半島の諸入江で、ハマチ養殖はリアス式海岸地形と種苗の確保・飼料の入手などの好条件に恵まれた鶴見町の沖松浦・有明海・羽出浦で行なわれている。またハマチのほか、タイが鶴見町で、ワカメ・ノリが上浦町で養殖されている。更に佐伯湾北部の上浦町津井には、瀬戸内海栽培漁業センターや大分県水産試験場があり、養殖漁業の発展に貢献している。

このように養殖業が盛んになるにつれ、佐伯市にある興人佐伯工場から放出される廃液被害が問題になっている。大入島の石間部落では、岸壁までも暗黒色に染まっており一種独特の臭気が鼻をつく。そのため島の南岸では漁業はいっさいできなくなり、また赤線区域といって貝や磯草の生育が全くみられない区域の存在もみとめられる。しかしこのような被害は局部に限られ、全体として漁獲高は近年の価格の上昇のため、かえって多くなっているという。とはいうものの漁業資源に食生活の依存度が高まっている近年、一時でも早く養殖可能な佐伯湾がよみがえることが望まれる。

また大分県による魚介類の大増殖海域の設定や、輪探制を行なうなどの海面管理機構の設置がなされ、資源の効率的な利用が図られている。

相模野中南部の地理学的考察

島 田 文 子

本論文は研究地域は相模野の中南部，神奈川県座間市，海老名市，高座郡綾瀬町および寒川町

の4市町である。相模川左岸に発達する洪積台地を総称して相模野と呼び、乏水性の故に開発が遅れたこと、そして相模野の北半部にあたる相模原市が今日、工場・住宅地として都市化が進められていることは一般に知られている。本地域は東半部が相模野で、西半部は相模川沖積低地で、台地を刻む小河川の谷底平野と相模川沖積低地では古くより水田化され、農業が行なわれてきており、大正期頃からは本地域の中南部を中心に施設園芸や養豚などの技術を積極的に導入し、近郊農業としての経営基盤を確立してきた地域である。北部の相模原市や南部の藤沢・茅ヶ崎・平塚などの都市が京浜地域の延長として都市化されてきたのに対し、本地域は近年までむしろ純農村的であったといえる。そしてそのような地域であった故に昭和30年代に経済高度成長期に入ってから受けた影響は急激で著しいものであった。本論文では昭和35年と45年の10年間に農業を中心として、本地域がどのような変貌をとげてきたかを考察した。

農業は経営耕地面積、収穫面積をみると昭和35年をピークに減少し、農家数・農家率はそれ以前から減少の傾向にあったが、35年を境に著しく減少してきている。それでも昭和45年の数値をみると神奈川県という範囲に限ると農家率・経営耕地規模ともに大きいといえる。経営内容では西部の水田率の高い部分をのぞくと、施設園芸、野菜、酪農、養豚、鶏など多種で異種経営混在の傾向にある。これらの部門は都市近郊という点を生かした経営であったが、昭和35年頃から京浜地域の過密化により本地域への転入人口、工場が急激に増加し、東京から40～50km、横浜から20kmという位置は農業にとってマイナスの要因として働くことの方が多くなってきた。農業と他産業との収入差、高地価は農業意欲を減退させ、本地域の農業は都市空間として緑地的意味をもち、土地・資本集約的経営部門だけが存続する程度にまで縮小することも考えられる。

繰り返していうと、本地域は京浜や湘南地域そして相模原市などの諸都市の介在地的な位置にあって、近年まで農村の色彩が濃く、都市化のスタートが遅れてきた地域であり、それ故成長期に入ってから京浜地域の過密化により住宅・工場が転入し、従来本地域の経済の基幹であった農業が衰退し、大きく変貌をとげつつある地域である。第四章の地域区分は第二・三章の考察をふまえ、産業人口指数（第一次産業人口を100として）によって本地域を農業的色彩の濃い部分と都市化が比較的進んでいる部分とに区分したものであるが、この結果は京浜地域との時間的距離をよく反映しており、本地域が現在から将来に向って京浜地域の住宅地・ベッドタウンとして都市化されつつあることを示しているといえよう。